

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	職員会議にて利用者の共通理解と職員の円滑な意思疎通を図っています
	内容	事業所は今年度より年3回(第5土曜日)の職員会議を新たに設定しました。このことにより時間的な制限が少ない話し合いの場が確保され、夕礼に参加できなかった非常勤職員も参加が可能となりました。全職員で会議を行うことで、事業所運営や個別の利用者の目標・課題・支援内容の共有を図ることができるようになり、職員同士が承認しあう支援チームづくりにつながっています。
2	タイトル	利用者一人ひとりの個性・障害特性・意思を尊重した個別支援計画と手順書を作成・運用し、適切な見直しによる実効性を向上させています
	内容	個別支援計画は特別支援学校や相談支援専門員からの情報や利用者本人の意向や障害特性をふまえて作成、年2回のモニタリングに基づき見直しを行っています。見直し時は日々の「日誌」や「支援手順書兼記録書」、ヒヤリハット等を情報源としながら課題を分析し、利用者本人の意向や状況変化を反映させることで、より利用者本人の自己実現や社会参加、QOL向上に生きるように努めています。その取り組みを担保するのは職員の協働であると認識し、毎日の朝礼・夕礼時のミーティングや年3回の職員会議での情報共有と意見交換も重視しています。
3	タイトル	地域社会との交流で育む働く自信と、透明性の高い公正な作業費還元による自立支援を実践しています
	内容	自主製品の販売活動を通じ、利用者と地域社会を繋ぐ積極的な架け橋を担っています。マルシェやお祭りといった施設内や就労店舗など多岐にわたる拠点での直接的な交流は、利用者の働く意欲を高めるとともに、事業所への理解を深める貴重な場となっています。活動の成果である収益は、全員へ「作業費」として均等に分配。創作が社会的価値を持つことを実感させ、自信の創出に繋げています。また、専用台帳による厳格な管理で分配の透明性と公正さを確保。地域との共生と、成果を分かち合う喜びを支援の柱とし、主体的に活動できる環境を整えています。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	起こり得るリスクに対し事業所は対策を講じています。しかしながらBCP(事業継続計画)の定着・実用性については今後の課題にあります
	内容	起こり得るリスクに対し、事業所はマニュアルや手順書を作成し組織として対策に備えています。毎月、手順書や計画書を基にした訓練も順次行っています。感染症対策としてのノロウイルスや飛沫感染症に対する研修会や吐物処理の実技訓練も実施しています。しかしながら、BCP(事業継続計画)は作成してありますが、更なる具体的な計画と職員への定着を含めた実用性について期待されます。
2	タイトル	支援向上とリスク対応向上のため職員間の確実な情報共有と良好なコミュニケーションをベースに更なる業務標準化が期待されます
	内容	事業所では支援向上とリスク対応向上のため、新たにコミュニケーションアプリも導入し、職員間の情報共有と日々の振り返り、実効性のある手順書(業務マニュアル)による業務標準化を期しています。事業計画書にも「職員研修、毎日の振り返りを徹底し支援力の向上と支援の共有を図る」とあります。日々状況が変化する利用者への対応は、会議への参加が難しいパート職員への情報周知や職員間の相互コミュニケーションの円滑化、支援手順書兼記録書等の記録運用の充実を図るほか利用者個々の支援手順(マニュアル)の更新・深化が更なる課題といえます。
3	タイトル	地域交流の要だったポスティングとプール活動が、閉店や人員不足で終了。現状のリソースを活かした新活動が模索されることを期待します
	内容	地域交流の柱の一つであったポスティング作業が提携先の閉店に伴い終了しました。また、プール活動もボランティアやインストラクターの減少による深刻な人員不足から、継続を断念せざるを得ない厳しい状況にあります。現在は環境の変化という大きな制約の中ではありますが、これまでの活動内容の見直しを余儀なくされる中で、新たな一歩を踏み出す転換期に立っています。今後は現状のリソースを最大限に活用し、地域との大切な繋がりを絶やさないための新しい活動形態を柔軟に模索しながら、組織の再構築を目指していくことが強く期待されます。